

B2（上級）レベルの課題遂行をめざした教材開発 — 新たな教材像模索の試み —

大船ちさと・篠崎摂子・清水まさ子（国際交流基金）

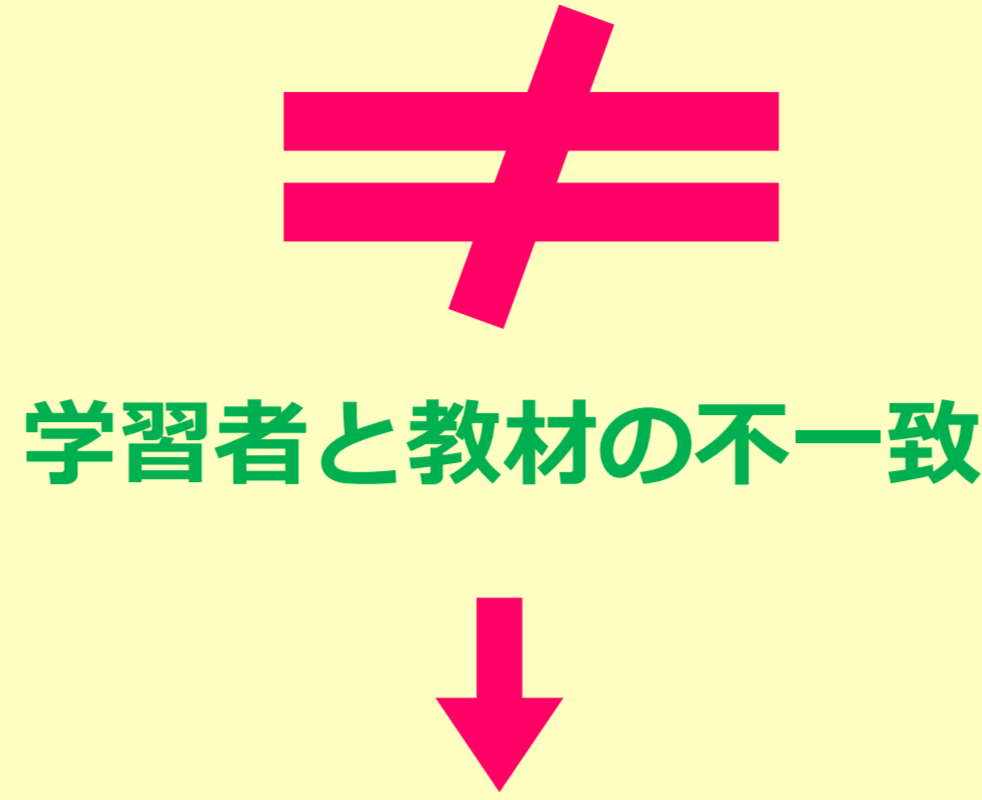
1. 問題意識

海外で「生涯学習」として日本語を学ぶ学習者の存在

- ・ 趣味や教養の一環
- ・ 学習目的が明確ではない

上級レベルの「生涯学習」現場の課題

- ・ 日常的なことはある程度、自力で達成可能
→ 次に何を学ぶべきかイメージを持たせにくい
- ・ 学習経歴が多種多様
→ 個々の学習者の既存知識や未習項目がバラバラ



既存の上級教材の現状

- ・ アカデミックジャパニーズ向け
- ・ ビジネスジャパニーズ向け
- ・ 読解、会話等の技能別教材
- ・ 言語知識増強タイプ（日本語能力試験対策等）

対象者・目的が明確な教材が中心

「日本語教材データベース」（吉岡・本田編2016）

生涯学習として学ぶ多様な成人学習者対象の課題遂行能力養成をめざした上級教材が必要では？
→ 多くの学習者に有用な学習活動を設定し、学習項目を網羅して提示することは可能なのか

2. 基礎研究

B2レベルの特徴

「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）」（Council of Europe2001）

■ 全体的尺度

- ・ 自分の専門分野の技術的な議論を含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる
- ・ お互い緊張しないで母語話者とやりとりができるくらい流暢かつ自然である
- ・ かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる

■ 「共通参照レベルの内容の一貫性」（Council of Europe 2001:35）

- ・ 効果的な論述：意見を補強するために根拠やコメントを示す
- ・ 社交的な談話：自然に流暢に相手との関係性を維持しながら会話ができる
- ・ 新たな高い言語知識（感覚）：自分のよくなる誤りが意識できる

■ B2レベルの全Can-do（112件）の分析

- ・ Can-doが示す実際の言語使用場面を想定・解釈し、タグ付け
- ・ Can-doのカテゴリーを超えて共通する特徴の抽出の試み

上級レベルの学習デザインの4要素（国際交流基金2011）

(1) 内容重視

(2) インプットからアウトプットへ

- 「気づき」や「モニター」の重要性
- 「背景知識」や「文脈・場面」を使用した予測・推測ストラテジーの重要性

(3) 多技能統合型の授業デザイン

- インプット中心の活動例
 - ・ トップダウン的な理解におけるストラテジーの利用
 - ・ 協働学習（ピア・リーディング、ジグソー・リーディング等）
- アウトプット中心の活動例
 - ・ タスク先行型のロールプレイ
 - ・ ピア・ライティング

(4) 流暢さ（fluency）

※ その他

- 言語形式に対する「気づき」の重要性
- 活動の評価とふりかえりの方法

B2レベルをめざす学習者が身につけるべき要素

積極性

伝える力

調整力

幅広い話題

相手への配慮

多角的な視点

3. 開発教材の特徴

■ B2らしい活動を取り上げた「サンプル」（モジュール型教材）

- 課題遂行型の学習活動
- 素材およびタスクのオーセンティシティ
→ 生素材（テレビ番組・新書・台本無しの会話など）
- 内容面と言語形式面のインプット
- 協働学習の重視
- 学習者による自律的・継続的学習を支援
→ 学習者が自分に必要なもの・ことを意識し、能動的に学び取るスタイルを採用（学習すべき言語項目は明示的に示さない）

- 授業で教材として使用可能
- 上級レベルの学習デザインの提案

公開方法：
ウェブ「みんなの教材サイト」（2018年4月以降）
公開するもの：
・ 教材（PDF／ビデオ・音声）
・ 教師用資料
・ 解答例

参考文献

- (1) 国際交流基金（2017）『JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』
- (2) 国際交流基金（2011）『国際交流基金日本語教授法シリーズ第10巻 中・上級を教える』ひつじ書房
- (3) 吉岡英幸・本田弘之編（2016）『日本語教材目録データベース』『日本語教材研究の視点－新しい教材研究論の確立をめざして－』くろしお出版
- (4) Council of Europe（2001）Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. Cambridge:Cambridge University Press.